地歴公民（日本史）　慶應義塾大学　法学部　1/1

＜全体分析＞

試験時間　90 分

解答形式

マーク式 40 問(語句選択 21 問　正誤判定 17 問　年代整序２問)　論述２問（いずれも 200 字）

分量･難易(前年比較)

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

大問数・小問数・試験時間に前年との変化はなかった。語句選択問題が５問、年代整序問題が２問減少し、正誤判定問題が７問増加した。論述問題は、前年は 200 字が１問・280 字が１問出題されたが、本年は２問とも 200 字となって分量が減少し、難度も低下した。

出題の特徴や昨年との変更点

語句選択問題が、語群形式から設問ごとに置かれた選択肢より選ぶ形式に変更された。これによりマーク式問題の解答時間が短縮されたと思われるが、論述問題もあるため時間的な余裕はなかっただろう。史料・正誤判定問題の多さは前年と同様であった。前年の論述問題は古代・近世から各１問だったが、本年は近代から２問出題された。

その他トピックス

前年と同様、歴史総合に関する問題が１問出題された。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント(設問内容･答案作成上のポイントなど)	難易度
Ⅰ	語句選択 正誤判定	平安時代の政治と御霊	設問７は、消去法で対応したい。なお、２の「易経、尚書、詩経、春秋、礼記を学ぶ学科」は明経道であり、清原氏や中原氏などが代々明経博士を務めた。選択肢の文章の「清平氏」は「清原氏」の誤記と思われる。設問９は、空欄Ｆの直後に続く文の内容から「勅旨田」を判断できただろうか。設問 13 は、１と４まで絞り込めるが、やや難。	やや易
Ⅱ	語句選択 正誤判定 論述	古代・近世・近代の感染症と公衆衛生	設問１・３・４・７は、難。設問５は、正解の「タカジアスターゼ」の発明者である高峰譲吉のヒントがなく、難。設問８は、設問文の「神奈川、兵庫、長崎」から開港場を、「1877 年の国内情勢」として西南戦争をそれぞれ想起しつつ、各地の兵らが国内を移動する際に開港場を経由したことを、思考力を働かせて導き解答を組み立てたい。	難
Ⅲ	語句選択 正誤判定 年代整序	近世の政治・社会・対外関係 《史料》	設問４・５は、地図を用いた学習を通じて地理感覚をつかんでおくと解きやすかった。設問 10 は、２・４まで絞り込めたと思うが、選択肢の文章表現が曖昧で難しかった。設問 11 は、慶應義塾大学志望者であれば、経世論の内容も理解したうえで正解したかった。	やや易
Ⅳ	語句選択 正誤判定 論述	若槻礼次郎の回顧録にみる明治末期～終戦期の政治・外交 《史料・グラフ》	設問３は、消去法で対応したい。設問８は、「大日本帝国憲法における帝国議会の権限を踏まえ」「史料①および史料③の内容と関連づけ」といった付帯条件が多いので、設問要求を満たす要素を無駄なく指摘し、指定字数以内にまとめたい。	やや易

※難易度は５段階「易･やや易･標準･やや難･難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

詳細な知識を問う問題が多いが、基礎的な設問の完答をめざして、教科書を丁寧に学習することが何よりも大切である。正誤判定問題の多さに加えて論述問題が出題されるため、用語の暗記だけでは太刀打ちできない。字数も 200 字レベルで、練習をしていないとすぐに書くことは難しいだろう。また、年代整序問題も出題されるので、時の政権者や時期などに注意しながら勉強しよう。未見史料と関連設問からなる法学部特有の出題形式にも対応できるようにしておくことも重要である。歴史総合からの出題はあるものの、まずは日本史探究の分野で得点を確保したい。

© 河合塾　2026 年